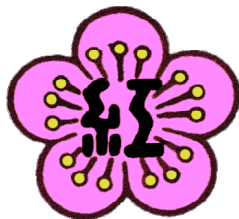


創立明治7年
開校147周年

令和3年度 紅梅小だより

赤塚っ子学びのエリア



紅梅



11月号

令和3年0月29日
板橋区立紅梅小学校
校長 小宮孝之

〇たくまい子 〇よく考える子 〇思いやりのある子

「読み解く力」の向上から学力の向上へ

校長 小宮 孝之

5月末に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果と分析が出てきました。今年度、板橋区の小学校の平均点数は全国の平均点を上回り、東京都の平均値に迫るところまでできました。また、これまでの大きな課題だった「無回答」（何も書かず、空欄だった回答）も減少しました。特に「理由を説明する」「グラフを解説する」など、言葉で伝える力の向上が見られた、とのことでした。

板橋区全体の結果

- ・国語の平均正答率は67点（全国平均は65点）
都の平均を越えた区内の学校数は全体の42.3%
国の平均を越えた区内の学校数は全体の63.5%
- ・算数の平均正答率は72点（全国平均は70点）
都の平均を越えた区内の学校数は全体の44.2%
国の平均を越えた区内の学校数は全体の71.2%

無回答率については次の通りです。数値としては都や国より大きくなっていますが、減り方については板橋区が圧倒的に高くなっています。

		R3年度	H31年度
国語	区	5.6%	9.1%
	都	5.4%	7.4%
	国	4.5%	6.2%
算数	区	3.2%	3.9%
	都	3.0%	3.2%
	国	2.6%	2.7%

なお、紅梅小学校の数値は残念ながら前回よりも大きく下降してしまいました。国語、算数ともに、区の平均得点よりも5点前後、低い数字になりました。改めて校内の学力向上委員会で結果の分析を行い、授業改善をしていかなければなりません。確かな指導力を教員が付けていくことも推進していきます。

板橋区では、子供の学力向上を図るために「読み解く力」を身に付けさせる、という方針を決めました。「読み解く力」というのは、文章や図から必要な情報を取り出し、理解して解決したり表現したりする力のことで、授業では、教科書の文章や図から読み取ったことや考えたことを相手に伝える、というような学習活動になります。これは、これからの高度情報化社会の中で生きる子供たちが、必要な情報を正確に読み取っていくために欠かすことのできない力になります。

読み解く力は以下の六つに分類されます。

係り受け解析

「誰が」「何を」「どうした」のような構造を正しく認識する力

照応解決

「それ」「これ」などの指示語を示すものや、省略されている言葉が分かる力

同義文判定

二つの文を比較して、それらが同じ意味かどうかを理解する力

推論

前に習ったことの知識を基にして考えたり、根拠を明らかにして説明したりする力

イメージ同定

表やグラフから分かることを文章に表したり、表やグラフと文章を関連付けて読んだりする力

具体例同定

新しく学んだ言葉を正しく使って文章を書く力

子供たちが最も難しいと感じているのはこの中のどれだと思いますか？ある調査では、正答率が次のようだったと言います。

	係受	照応	同義	推論	イメ	具体
小6	65.1	58.2	62.1	58.6	30.9	19.6
中1	65.7	62.3	61.6	57.3	31.0	24.7

(数字は正答率(%))

一つめが、表やグラフが何を示しているのかを読み取って言葉で説明する力、そして二つめが、習った言葉を自分のものとして使えるようにする力、この調査ではそこが低く出しています。これはどのような指導をすることで伸ばしていくことができるのか、どのような教材をどのように使わせるのが有効なのか、教えたことをどのように習熟させていくのか、さらに、身についたかどうかをどのように測るのか。こうしたことが「教材研究」です。スポーツの世界が「根性論」から「データ理論」に進化したように、教育も「100回練習」からエビデンス重視にしていけないといけません。子供たちの学力の向上に繋がるような、意図的、計画的で組織的な学習指導をしていくことが私たちのミッションです。